

公民館報

さかえ

第356号

令和6年1月1日発行

- 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1
- 電話
0269-87-2100
- 編集
栄村公民館報編集委員会

青倉区 収穫祭

「知る」と「汁」で地区への思い 深め、交流ひろがる

何年ぶりでしょうか。コロナ禍で交流行事が出来ないこともありましたが「収穫祭」をやつと行うことが出来ました。

米の収穫もほぼ終わった10月の後半の土曜日、公民館の前では薪ストーブに掛けられた羽釜からとれたての新米が炊ける良い匂いがしています。



周りには元わけしよ(?)が集まり賑やかです。薪で飯を炊くことなどとうの昔に廃れてしまい、炊き方さえ伝承されなくなっているだけに興味は尽きません。数日前の失敗を糧にこの日は最高の炊き上がり、ピカピカのお米

で塩むすびを作って、来た人に振る舞い食べて貰いました。最高の米と水、そして何より出来たてを食べて貰おうという思いがこもったおむすびほどのご馳走はありません。

今回の収穫祭では、飲んで食べながら楽しく交流して収穫を祝うだけでなく「青倉の色々」をみんなで共有しよう」と公民館の大スクリーンを活用し「知るプログラム」も準備しました。

もともと地区内にあった要望を形にしたものです。地震の被害から中山間地の基盤整備による田直しが終了したことを受け、区内の田んぼが大きく変貌する中でどのように整備されたのかを鳥のように空から眺めてみようじゃないかということになりました。

役場のご協力も得てドローンにより区内全域を撮影してふるさと紹介映像として観て貰いました。説明やBGMも挿入し区の行事や人々の暮らしぶりなども取り入れた映像は素晴らしい出

来映えでした。綺麗に整えられ広々と広がる黄金の色の稲はそれを育む豊かな土地と人々の弛まぬ営みに支えられていることを実感するものでした。

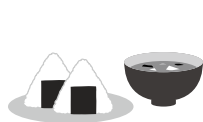
続いてのプログラムは、青倉地区に生息が確認された稀少生物についてです。栄村の稀少動植物調査員の方々に貴重な映像とともに詳しく解説していただきました。環境が変わり絶滅を危惧されるトンボや蝶、鳥などそこにか居ない、そこではか生きられない珍しい生き物が青倉にも沢山生息していることを知りました。普段刈っている草とそれだけを餌にしている蝶のこと、区内の自然環境の中で辛うじて命を繋いでいる生物もまたそこで暮らす私たちと共生する仲間であることが分かります。40分という時間があつという間に過ぎてしまいました。

第2部は、大鍋で作ったキノコがたっぷり入った汁を食べながら飲んで食べての賑やかな交流会でした。新しく区に加わった方も参加して拍手で迎えられるなど和気藹々とした雰囲気でした。コロナ禍もあつて寄り合つて語る機会が少なかったのでキノコ汁に舌鼓

を打ちながらの収穫祭は区内の交流が深まり楽しい会になりました。また、この会の成功のために多くの方々それぞれの特技を生かしてプロフェッショナルな準備をして頂きました。

収穫祭は、あらためて青倉区の今を知り、人も生き物も気づかなかつたことや良さを発見する貴重な会となりました。良い水と美味しいお米、この地で命を繋ぐ稀少な生き物たちとともに生きる青倉区の素晴らしさを再確認することが出来た収穫祭でした。

(青倉公民館長)



スポット!

楽しい人生に趣味は欠かせない!
 家のことに百姓仕事、地区行事いろいろ
 ある。そんな日常の中で趣味を持ち、
 いきいき輝く方にスポット!
 その楽しさ・魅力を発信します。



今回のスポットは極野で菊を育てている藤木泉さん。

みんなに見てもらって「きれいだな」って言ってもらえたらそれで満足。それが支え

極野集落に丸いドーム状の形をした菊たちが、綺麗に咲き誇っているという。

育てているのは、藤木泉さん。お話を伺いに行くとお宅のまわりにもたくさん菊が見事だった。



6、7年前、公民館のところのグランドが草でぼうぼうで綺麗にしようと思って始めたという。お堂前の畑も1か所から今や3か所へ、かやでぼうぼうだったとは思えない美しさ!何故菊を?と聞くと、「中条の月岡英男さんが田の畔に植えていて、きれいだな」とのこと。そして同じく菊を育てていた長瀬の齋藤英人さんから株分けしてもらったそう。

黄色のほかに、ピンクや白の菊も育てたが同じタイミングで咲きそろうのは難しい様子。外灯の下は咲きにくいことも経験。そして今年はず暑だった。

奥様「私は一切手伝わわないの、(泉さんには)こだわりがあるからね。朝5時半には起きて大きなたらいに水をいれて水くれには行ったね」ご本人もひとりでする方がよいのだとちょっと苦笑い。

苗を育て定植、草刈りや消毒に水やり。花が広がり倒れないよう支柱もし、外灯の下の菊にはカバーもか



中野と極野の間にあるお堂前の畑 (写真左、左から極野の藤木八十治さん、藤木泉さん)

けて対応。まさに子育てのようなキメ細やかさと愛情を感じた。咲いたら教えてねと話してくれた



北野天満温泉の菊

歩いて行けない人を、軽トラで送迎し喜んでくれたそう。
 「誰も来ないよ、こんなところ...見てくださいはいんだ」と泉さん。
 集落のひとだけが知っているだけではもったいない。誰も来ないこんな所だからわざわざ行きたくなる素敵な場所、花や集落、そしてお互いを思いやり、大切にすること。
 2024年秋は栄村の、新観光名所「極野の菊」(勝手に命名してしまいましたが)をどうぞ心にお留め置してください。そして、どうぞ足をお運びくださいね。
 「来年はもうしない」という泉さんの口癖が、これからも毎回裏切られることを心待ちにしたいと思いません。
 北野天満温泉入り口にも十二月初めまで泉さんの育てた立派な鉢植えの菊がみなさまをお迎えしていました。秋は温泉に行く楽しみも増えますね。

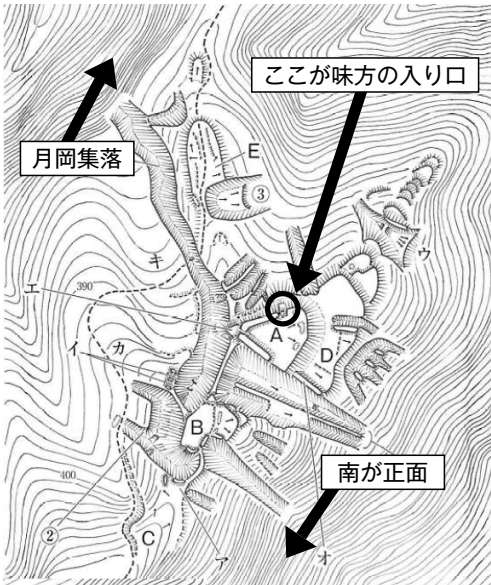
公民館
講座

村誌を読み解く〜仙当城編〜

十一月十二日、月岡公民館共催で仙当城を歩く講座を開催しました。講師は昨年度の「城坂城編」でも来ていただいた、村誌執筆で現小川中教諭の遠藤公洋先生。「仙当城はどっちが正面かわかりますか？」から始まり、「土塁があるので平らな場所が見えなくなっている」など、現地を見ながらわかりやすく詳しい説明を頂きました。仙当城は実戦的な城で南側（信州側）から攻めてくる敵を迎え撃つためにあるそうです。おそらく造られたのは元龜二年（一五七二年）当時は「市川新

地」と呼ばれ、箕作辺りが「市川寄居」と呼ばれていたのではといった内容を当時の上杉や武田の情勢を古文書も活用しながら解説してくださいました。有名な武将がこの地で戦っていたのかと思うとワクワクしますね。左の頁の仙当城の話は築城から少し後の話ですが、様々な説もあり、面白いですね。栄村の歴史は本当にすごい！と思わされる講座でした。

当日の様子は教育委員会
YouTubeで視聴
可能です！



仙当城概要図（当日資料より栄村公民館改変）



ばあのごっつお紹介します！

先日、森ふれあい会から、「若いひとに教えるのに正月ごっつお作るから、よかったら食べに来てくんねかい」とお呼ばれを頂きましたので取材に伺いました。

「こうやってみんなが集まって、いろんな人が先生になって教えあう機会が大事だと思って」と、毎月森公民館に集まり、手芸や料理など、様々なことを行っている、平均年齢八十過ぎの素敵なおんなしよの会が森ふれあい会です。

正月ごっつおなので、様々な「いわれ」を聞きながらごっつおを頂きました。曰く「蕨わらびは笑って生きる、サトイモは子孫繁栄、昆布はよろこんぶ、レンコンは先を見通

せるように、車麩くるまぼろしは丸く円満に収まるように。」などです。

昔の話も思い出しながら「蕨は血を荒らすから産後はゼンマイを載せたんだよね」「ゴボウはもつと長かった」「ハレの日は紅白なますで、ケの日はゆでなます（白だけ）作ったよ」と和気あいあいとした学びの多い集まりでした。



1の膳（手前）に載っているもの
左手前から、焼き魚、エゴ、白米
真ん中左から、なます、黒豆
左奥から、せえ、きんとん、吸い物
です。

こらっせに保管している森広瀬家のお膳をお借りました。本来、お皿の名前や配置も決まっていますが、今回は簡易版ということで、甘味を載せる皿に魚が乗っていたり、2の膳は飯で載せてあったりします。



おらどこの「宝」の知識を深めよう

おら村の宝!

その10

「上杉謙信の孫、道満丸伝説を探る
～常慶院と仙当城」その②

前回から続き、道満丸と月岡集落、仙当城との関係です。

③月岡・市川氏(油屋)との関係は?

元村長であった市川和雄さんのご先祖「市川氏(屋号油屋)」は鎌倉出身の武士で上杉氏に招かれて上越・高田に移り、その後、道満丸の後見人として栄村近辺を治めていた「市河氏」に仕え、月岡に来たようです。

秀吉による一五九八年の上杉景勝の会津移封の際、市河氏と常慶院は会津に移りました。しかし、月岡の市川氏はかくまった道満丸とともに月岡に残りました。成人した道満丸は市川氏の娘と結婚し仙当城の城主になったようです。

④仙当城の名前の由来

謙信の姉、仙桃院は八十五歳まで生きたと言われ、景勝時代も力があったようです。ですから道満丸を守るため城の名前に自分の名前を付けたのだと思われまます。

⑤市河氏の残した貴重な資料

「市河文書(山形県本間美術館所蔵)」「市河家文書(山梨県立博物館所蔵)」は平安末期から戦国時代までの約400年間の市河氏の動向を記した栄村を代表する武家文書です。

この文章が注目されたのは武田信玄の天才軍師と言われた山本勘助が実在人物であることを「市河家文書」が証明したことです。

また、月岡市川氏の文書は「高井郡箕作村市川家文書」の名前で長野県立歴史館に所蔵されています。

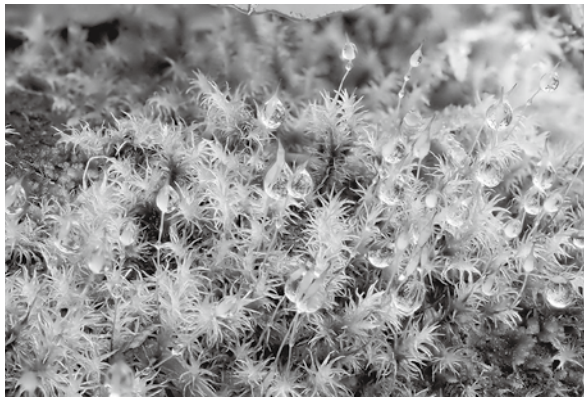
最後、道満丸は常慶院の末寺大龍院と一緒に越後津南に戻っていったそうです。栄村にはこんな大河ドラマにもなりそうな歴史が潜んでいて、興味を引き立てますね。

(文責 中沢謙吾)



レンズを通してみる世界

市川 憲一 (月岡)



写真と言えば、目の前のものを肉眼で見たそのままの姿で画像化したもの、と思って差し支えない。全く差し支えないのだが、実際にファインダーを覗くと、目の前に



アキアカネの顔のアップ: コケの写真と同じように、被写体に数センチまで近寄って深度合成したもの

あるものとは少し印象が違って見えることがある。その理由は、人間の眼とカメラのレンズの構造の違いやカメラと被写体の位置関係、または、レンズに入ってくる光の方向だったりする。

9月の終わりに苗場山に登った。あいにくの雨でカメラは防塵防水のコンパクトカメラを使う。花の時期は過ぎた頃で、登山道沿いの岩や樹の幹には、色々なコケが雨に濡れていた。私の使っているカメラはレンズ先端から一センチメートルまで被写体に近づくことができ、さらに、ピントを少しずつずらして八枚撮影し、それを合成して全体にピントの合った写真にすることができ。

出来上がった写真は、虫眼鏡で拡大したもののように、自分が小人になったような気分になった。

あーそんなことがあったんか
ど先生の柴村昔語り 其の六十

『元文五年の村定法 その5』



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

昨暮れにかけ寒波と大雪に見舞われましたが、お変わりなくお過ごしですか。年が改まりました。本年もよろしくお願いいたします。昨年は清水寺の「今年の漢字」に「税」が選ばれ、インボイス制度導入や保険証の廃止論議など、身近な所でじわりとした変化を予期させることが多い一年でした。諸事変化するなら良い方向へ、と願うばかりです。

前回は村定第四条の「昼休」という休み方についてお話ししました。今回は第五条を見てみましょう。ま

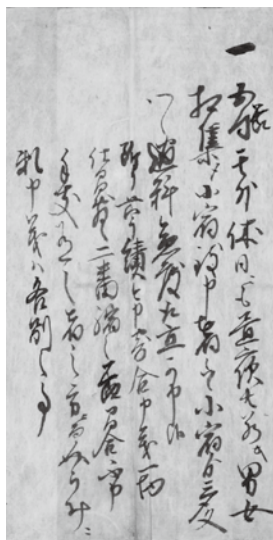
ず内容です。

一、五節句其外休日ニも昼夜共若キ男女相集メ小宿致申者候ハ、小宿より三貫文ツ、過料急度取立可申候(五節句やそのほか休日に、昼夜とも若い男女を集めて小宿を致す者がいたら、小宿から三貫文ずつ罰金を必ず取り立てるであらう。)

附り、芋績と申寄合申義一切仕間敷候、二番縮之節間合不申手支有之者之方ニ而介うみニ頼申義ハ各別之事(附けたり、芋績みと称する寄合は一切してはならない、二番縮の時期に間に合わず手元が差し支える者がいて、「介績みに」に頼まれたなら、それは特別に扱うこと。)

この箇条には、休日の日取り、休日の過ごし方、そしてこの規定が対象にしている人々、という注目点があります。それぞれに見てゆきます。

まず休日の日取りとして、「五節句そのほか休日」と書かれていますが。五節句は一月七日(人日)、三月三日(上巳)、五月五日(端午)、七月七日(七夕)、九月九日(重陽)のことで、神事を行う年中行事(節供)を指し、時代の流れとともに季節の区切り(節供)となつてゆき、江戸時代には幕府が祝日と定めていました。前回お話ししたように、当時の祝日は公務を休んで祝賀行事をする日です。島田家文書にある幕末の日記にも、六月十六日に「此日御事があります。嘉祥(嘉定)とは菓子を食べて邪気を祓い健康を祈願する行事で、江戸時代には將軍から諸大名や幕臣に菓子配る行事が執り行われていました。いっぽう村落では、島田家の延享元年(一七四四)の日記を見ると、五月五日に寺へ節句のちまきと酒一樽を贈った他は胡瓜の植え付けをしたり、その他の節句の日も道普請をするなど、全くの労働休日ではなかったようです。もっとも日記の記述は庄屋の家内のことなので、一般の百姓家は休んでいても家来の者には休みがなかったのかも知れません。むしろ前回写真でお見せした天王祭など祭日には家来の者も休みとなり、五節句より村の祭日の



「村定、第五条」

方が休める人も多かったのでしょうか。定式の休日の他に、臨時の休日もありました。延享元年は春から水不足になり、四月下旬には堰に水がなくなり、小滝では苗代が干上がるほどになります。時々雨も降りましたが野田沢と小滝では五月上旬に予定していた田植えができず、堰普請をくり返しても埒がききません。五月二五日(新暦七月五日)には水払底のため寺に雨乞いを頼むことになり、神社の方でも協力して翌日から翌々日から取り掛かることになりました。その際に、もし雨が降ったら「村中遊び申すべし」とあります。これは庄屋の発言らしく、雨乞いの効験があれば臨時の休日にするというところで、庄屋に村の休日を決める権限があったことがわかります。雨乞いの結果ですが、翌二六日は曇り、夜から雨が降り始め、雨の日が続くようになりました。日記に記事はありませんが、約束通り休日になったものと思います。続きます。

伝統食体験会

冬の入回講座開催しました

11月20日(月)に栄村の伝統野菜のししこしょうを使った野沢菜漬け体験会、12月3日(日)に正月前のそば打ち教室を開催しました。野沢菜漬けは民生課・農政課・スキー場と協働、そば打ちは民生課と北野天満温泉との協働です。どちらも10名程度お越しいただきました。

ところで、栄村のそばについては「おら村の宝」で何度かお伝えしてきましたが、「ししこしょう」についてはご存知ですか？横倉や小赤沢で種を継いで伝えられてきたトウガラシの一種です。平成28年には信州の伝統野菜にも認定されました。お尻が三つに割れたピーマンのような形をしています。鷹の爪より肉厚で、種は辛いですが、果肉は甘く、熟して赤くなると良い香りもします。乾燥させて一味にすると七味の代わりに使えるくらいです。昔は鷹の爪が栄村になかったので、野沢菜漬けなどにもししこしょうを使っていたのだとか。今回は「栄村伝統野菜ししこしょう部会」のかあちゃんたちに教わりながら野沢菜を漬けました。うまく漬ければスキー場でも提供をされているはずです。ぜひ食べに行ってみてくださいね。



そばをこねる参加者



野沢菜漬けとししこしょう

小赤沢公民館で そば打ち教室開催

12月17日(日)、小赤沢公民館で、集落主導のそば打ち教室が行われました。

小赤沢活性化倶楽部でそばを作っているのですが、今はすべて他の所に出荷しているため、「自分たちで作ったそばを食べたい！食べてもらいたい！」という思いから始めたそうです。

昨年、そば打ち教室を受講された福原洋一さんの声掛けで、老若男女15人弱の方が集まり和山(森)の相澤優樹さんを主な講師に3人1組となりそば打ちをしました。

11月にも行ったそうで、この冬、ひと月に1回を目安に続けて行くとのこと。小赤沢の集落全員がそばを打てるようになる日も近いかも!?これからも応援しています。



続・そば打ち教室 参加者募集!!

～1月にもそば打ち教室をやります。
ぜひお申し込みください!～

- 日にち 1月28日(日)
- 時間 13時30分から17時ころまで
- 場所 北野天満温泉
- 持ち物 三角巾・エプロン
- 参加費 300円(定員10名)
- 申込み 民生課 健康支援係 ☎87-3020

冬の「てわるさ」なじよだえ?

～猫つぐら教室 ご自由にご参加ください～

栄村つぐら振興会が下記日程で猫つぐら教室を開催します。「てわるさ」覚えませんか?

- 日にち 1月21日(日)、2月18日(日)、3月17日(日)
- 時間 10時から12時まで
お時間ある方はそのあとも作っていただいで結構です。
- 場所 栄村公民館 こらっせ
- 申込み不要 問い合わせ先 栄村公民館 ☎87-3118

桑原健次郎さん (26歳 北野)

私は、栄村で家業である設備屋「栄水道」で設備工事の仕事をしています。

高校卒業時いろいろと進路を悩んだのですが、親父の跡を継ぐと決め、弟子に入りました。もう8年もたち、仕事にもだんだんと慣れてきました。日頃から皆様に仕事をいただいて大変感謝しております。ありがとうございます。

休みの日には、趣味の海釣りに友達や先輩と行っています。新潟の海が主なので最低でも1時間半程の道のりですがとても楽しいです。まだ上手くなく、ボウズもざらなので、上手い人のアドバイスお待ちまーす！



冬は雪害対策救助員として働いています。雪掘りも任せてください！



おおきくな〜れ



大きくなったら、みんなを守る工事現場の作業員になりたい！

こうせい
晃成さん (4歳)

いつも笑わせてくれる優しい晃成。笑顔いっぱいのまま大きくなあれ！
久保田成哉・ゆき乃さん宅 (横倉)

ようこそ！栄村へ！！



安田深雪さん (青倉)

①栄村に移住しようと思ったきっかけは？

20年程前に栄村の猫つぐらを購入し、その美しさに魅了されて、いつか作ってみたい、職人になりたいと漠然と思っていました。

一昨年村を体験訪問する機会があり、村の空気感と居心地の良さや村民のみなさん達の温かさに触れあっているうちに「ここでならやってくれる！」という自信がつき、すぐに移住を決めました。

②今一番楽しいことややりがいのあることは何ですか？

体験訪問の際にお世話になった、シェアハウス「とまりいえ」の2号館管理人として運営の手伝いをしています。住人さん達と一緒に日々楽しく暮らせるように手探りをする毎日です。

そんな中で、住人さん達が村での生活を満喫していたり村のことを好きになってくれていたりするのが垣間見るとすごく嬉しくやりがいを感じます。

③これからどのように過ごしていきたいですか？

栄村に移住して1年経ちましたが、まだまだわからないことだらけなので、これからもみなさんに色々教えてもらいながら村での暮らしを楽しんでいこうと思います。

将来的には、猫つぐらだけでなく村の魅力ある工芸品や食文化などを継承し後世に残していく作業に携っていただけたらと考えています。よろしくお願いたします。

安田さんも魅了された猫つぐら教室の情報は29ページへ ⇒

「さかえ」通信



古文書班の活動



考古班の活動と修復した土器

どの作業も専門知識がない方でもできますので、ぜひ皆さん次回の活動時にご参加ください！「うちにもこんなので〜」等お茶のみに来ていただだけでも結構です。

「古文書班」では主に古文書の目録作りです。「なんて書いてあるのかな」等雑談しながら古文書を読んで内容を書き記したり、読めない方は古文書にはさむしおりに作ったりしています。「民具班」では東部保育園に保管してあり、家ごとに分けていた民具を見やすいように種類ごとに分けて置いていく作業をしています。「考古班」は旧東部小学校に保管してあった土器を「これはここかな？」と言いながらくつつけたり拓本と呼ばれる土器の図柄の写しを採ったりしています。

栄村の震災でレスキューされた古文書や民具、考古資料の整理を行ってくださっている「地域史料保全有志の会」の活動が令和五年八月より再開されました。活動で何やっているの？ということですが、「古文書班」「民具班」「考古班」の三つに分かれ活動を行っています。

2023年(1月~11月)の来館者数

延べ1,382名

開館以来の来館者数(R5.11月末)は13,283名です。

カセットテープやレコード、もう家で聞けなくなったもの等、良い音質で聞けますのでぜひこちらにお越しください。ビデオテープ等の視聴もご相談ください。今年もよろしくお祈りします。



24ページで紹介した収穫祭ですが、泉平でも盛大に行われました。令和5年はコロナ禍の謹慎ムードも明け、生き生きと動き始めた1年だったのではと感じています。今年はずっと活発な1年にしたいですね。

あけましておめでとうございます

公民館報編集委員より皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

初詣。皆さんもうお宮にお参りはしましたか？編集委員で話していると、「小滝は4つの神社を周り、終わったらするめとピーナッツで歯固めをする。」「箕作はお宮・カネサマ・お寺の順番で周る。」「青倉は昔は集落から細い道を上ったけど今は道路ができたので車ですぐ近くまで行く。」など面白い話が聞けました。あなたの集落はどうですか？

編集後記

この編集後記を書いている時、早いもので令和5年があと少しとなってしまいました。振り返ってみると猛暑を上回る酷暑といわれる暑い日が続きました。

この暑さで十日町市では、田んぼにひびが入り、魚沼産の米の等級が下がったとニュースで言っていました。農家さん泣かせの暑さだったんじゃないでしょうか？畑の方も影響があつてトマトが一時取れなくて高くなりましたね。お米も暑さに強い品種が研究されているみたいです。

秋山でもここ何年かクーラーが必要と思うようになりました。令和6年はもう少し、気象が落ち着いてくれるのを願うばかりです。(美)

今月の一句 ~栄村俳句会~

年の暮亡夫の遺作に目をとほし
幾年も落葉つもりて茸見ゆ

山田セキ

クレソンを摘むせせらぎや小雪降る
年の瀬や幼なじみと長電話

関谷貞子

去年今年戦を止める術ありや
初日記時間の流れははやすぎて

柳 静江

刺さる程星の輝く冬夜空
冬霧に太陽白く浮かびおり

杉浦恵子